

# 第5学年 外国語活動学習指導案

平成31年2月1日(金) 第5校時  
活動場所 多目的室  
在籍児童数  
指導者

1 単元名 Unit 5 She can run fast. He can jump high. できること

## 2 単元目標

- (1) 自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。
- (2) 自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちを含めて伝え合う。
- (3) 他者に配慮しながら自分や第三者についてできることやできないことを紹介し合おうとする。
- (4) 文字には音があることに気付く。

## 3 単元評価規準

- (1) 自分や第三者について、できることできないことや既習の事項を活用して、聞いたり言ったりしようとしている。(外国語への慣れ親しみ)
- (2) 自分や第三者について、できることできないことや既習の事項を活用して、考えや気持ちを含めて伝え合おうとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (3) 他者に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことを紹介し合おうとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (4) 文字には音があることに気付いている。(言語や文化に関する気付き)

## 4 語彙・表現

### (1) 主な表現

Can you (sing well) ? Yes, I can./ No, I can't. [I / You / He / She] [can / can't] (sing well.)

What do you like ? I like ~. What do you want ? I want ~.

### (2) 主な語彙

動作 (play [the recorder / the piano.], ride a [bicycle / unicycle.], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well), can, can't, he, she, Mr., Ms., net, omelet, etc

既出 スポーツ、動作、日課、not, etc

## 5 単元について

児童は小学校3年生から積み重ねてきた学習を通して、英語を聞いたり話したりすることに慣れ親しみ、自分の思いを英語を使ってコミュニケーションを図ってきた。本単元では、can を取り扱うことから、自信をもって自分のできることを話すことで、自己肯定感を高めたい。またこの単元では、三人称に初めてであらう。他者に配慮しながら、自分のことだけでなく自分以外の第三者について、できることやできないことを尋ねたり答えたりする学習を行う。そうすることで、できることを認め合ったり、できないことについて共感し合ったりしながら、学級が学習集団として高まり、よりよい人間関係を築かせたい。

この単元の最終目標として、「海外の友達にビデオレターを送る」ことを設定している。実際に昨年度までクラスにいた友達に、ビデオレターを送ることを意識させ、必然性のあるコミュニケーション活動になると考えられる。また今まで習った「like」「want」「have」を繰り返し使い、定着を図りたい。その内容の中身も自分の本当の思い、考えを伝えるよう指導し、ジェスチャーやイラストを取り入れながら思考力、判断力を養わせたい。

## 6 児童の実態について

<省略>

7 指導と評価の計画（第4時／6時間扱い）

| 時間          | 目標と主な活動  | 評価 |   |   |  |
|-------------|--|----|---|---|--|
|             |  | コ  | 慣 | 気 | 評価規準及び評価方法   |
| 第1時         | <p>動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知る。</p> <p>○ Small Talk : I can ~. I can't ~.</p> <p>○ 「ジェスチャーゲーム」</p> <p>【Let's Play1】</p> <p>○ 教師の発音とジェスチャーをみて、どの動物かを当てる。</p> <p>【Let's Listen1,2】</p> <p>○ 音声教材を聞いて、誰かを聞き取る。</p> <p>【Let's Play】</p> <p>○ ワークシートに、自分のできること、できないことを書く。</p> <p>○ 出来る児童はできること、できないことを発表する。</p> <p>【Jngle】 Animals</p> |    | ○ |   | <p>・できることやできないことを聞いたり言ったりしている。〈行動観察・紙面点検〉</p> <p>・自分のできることできないことを聞いたり言ったりしている。〈行動観察〉</p> |
| 第2時         | <p>動作を表す語に慣れ親しみ、他者の紹介を聞き取る。</p> <p>○ 「ジェスチャーゲーム」</p> <p>○ 「ミッシングゲーム」</p> <p>【Let's Listen】</p> <p>教師とALTの Small Talk を聞き、He ~.She ~.の使い方を聞き取る。</p> <p>【Let's Chant】</p> <p>He can run fast. She can sing well.</p> <p>【Let's Listen3】</p> <p>音声教材を聞き取り、イラストの下に番号を記入する。</p> <p>○できる児童は他者の紹介をする。</p>                               |    | ○ |   | <p>・他者の紹介の仕方を聞いたり言ったりしている。〈行動観察〉</p> <p>・他者の紹介の仕方を聞いたり言ったりしている。〈行動観察〉</p>                |
| 第3時         | <p>できる、できないことについて、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>○ Small Talk : Can you ~?</p> <p>○ 「ジェスチャーゲーム」</p> <p>【Let's Chant】 Can you sing well?</p> <p>【Activity】</p> <p>「できること、できないことを尋ねたり答えたりしよう」</p>  |    | ○ |   | <p>・できることできないことについて尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・誌面点検〉</p>  |
| 第4時<br>(本時) | <p>相手意識をもって、友達のできること、できないことなどを尋ねたり、答えようとしている。</p> <p>○ Small Talk : Can you ~?</p> <p>【Activity】</p> <p>「莉亜さんにビデオレターを送ろう」</p>  |    | ○ |   | <p>・相手意識をもって、できることできないことなどを尋ねたり、答えたりしている。〈行動観察・誌面点検〉</p>                                 |
| 第5時         | <p>相手意識をもって、クイズ作りに取り組んでいる。</p> <p>【Let's Chant】 I can run. I can swim.</p> <p>【Activity】</p> <p>「莉亜さんにビデオレターを送ろう」</p>  |    | ○ |   | <p>・相手意識をもって、できることできないことなどを尋ねたり、答えたりしている。〈行動観察・誌面点検〉</p>                                 |
| 第6時         | <p>相手意識を持って、ある人物になりきって紹介している。また文字には音があることに気付く。</p>   |    |   |   |  |

|  |   |  |  |                                 |
|--|---|--|--|---------------------------------|
|  | <b>【Activity】</b><br>「莉亜さんにビデオレターを送ろう」<br>(ビデオレター作り)<br><b>【Jingle】 Animals</b> |  |  | ○ ・文字には読み方のほかに音があることに気付く。〈行動観察〉 |
|--|---|--|--|---------------------------------|

## 8 中学校英語との関連

中学校では、第1学年「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1」 section 5 国際フードフェスティバルでの主な言語材料・基本文として he, she を用いた表現が、また第1学年「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1」 section 8 Origami での主な言語材料・基本文として can (肯定・疑問・否定) を用いた表現が取り上げられている。

本単元では相手を紹介する際に he, she を用いた表現方法を取り入れ、中学校での学習との関連を図りたい。また、can (肯定・疑問・否定) を活用して自己紹介や他己紹介をすることで中学校での学習へと円滑に接続させていきたい。

## 9 学校行事や他教科等との関連

体育の授業で「野球やサッカーができる」、音楽の授業で「ピアノやリコーダーができる」、家庭科の授業で「料理や裁縫ができる」等、学校や普段の生活の中で自分のできることや友達のことを本単元で見つめ直し伝え合うことで、自分のよさや、相手のよさを認められるようにさせたい。そうすることで、様々な学校行事や他教科等の中でも児童が自分に自信をもち、互いに考えや思いを伝え合えるように関連づけていきたい。

## 10 本時の学習指導

### (1) 研究主題との関わり

昨年度、本校は児童も教師も外国語活動に苦手意識をもっているという実態を踏まえ、「児童も教師も楽しめる授業作り」をめざして研究に取り組んだ。そして、児童も教師も「授業の楽しさ」を味わえるようになったという成果を得られた。

今年度は、昨年度の研究の課題として捉えた、学習内容の充実に伴う英語の学習に難しさを感じる児童の増加という実態を踏まえ、「授業の楽しさ」を、「伝えられる喜び、理解できる喜びを味わえる楽しさ」へと変容させることを目指し、研究主題を次のように設定した。

『教育活動全体における外国語科指導法の研究』  
～自分の考えや思いをもち、伝え合い、理解できる喜びを味わえる授業をめざして～

そして、教科等横断的な視点から『楽しめる授業づくり』の質の向上をめざし、昨年度と同様に他教科等において一単位時間のなかに

- ① 児童が自分の思いや考えを伝え合う活動の設定
- ② 児童が自分の思いや考えを伝え合う必然性のある場面の設定
- ③ 児童が自分の言葉で授業を振り返る活動の設定

を意識して位置づけ、「伝えられる喜び、理解できる喜びを味わえる」授業づくりに取り組んでいる。

本単元では、Can you ~ ? また既習事項の like, want, have を自然な形で使う場面として、海外に住んでいる「莉亜さんにビデオレターを送る」ことを単元の最終目標として設定した。児童が実際に昨年度までいっしょに生活していた友達に送ることを意識させることで、自分の思いや考えを伝え合う必然性が生まれるであろう。

本時では、最終的な Who am I クイズをつくるための「インタビューの練習をする」という学習課題を明確にし、具体的な言葉がけを行うことで、積極的にコミュニケーションを楽しみながら「伝え合い」を意識しての授業を展開したい。

### (2) 本時の目標

- ・相手意識をもって、できることできないことなどを尋ねたり、答えようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

### (3) 準備

電子黒板、ワークシート、イラスト、ボール、ラケット etc

1 1 本時の展開

|     | 児童の活動   | 指導者の活動  | ○指導上の留意点<br>◎教材・機器<br>◆評価の観点と方法<br>■研究主題とのかかわり   |
|-----|---|---|--|
| 5分  | ○あいさつをする。   | ・既出表現を使ってあいさつをする。<br><br>T: Hello, how are you ?<br>S : I'm good./ I'm great./I'm tired.<br>T: How's the weather ?<br>S: It's ____ .<br>T:I can ~ . Can you ~?<br>A:Yes, I can./ No, I can't. I can ~.<br>T:I can ~ . Can you ~ ?<br>S: Yes, I can./ No, I can't. I can ~.<br>T:友達にも、自分ができること、できないことを言って、それができるか聞いてみよう。 | ○あいさつをすることで、英語活動のはじまりを意識させる。その際、既出表現を用いて、簡単な会話をするすることで、意欲を高める。                                 |
| 4分  | 【Presentation】<br>・海外の友達からのビデオレターを見て、本時の内容の確認をする。   | ・海外の友達にビデオレターを送ることが本単元の目標であることを明示する。<br><br>莉亜さんにビデオレターを送ろう<br>・その内容として、前時で行った「Who am I クイズ」で行うことを提案する。   | ○簡単な英語で教師が趣旨を伝えることで、児童が安心して活動できるようにする。<br>◎電子黒板<br>■研究主題とのかかわり<br>②児童が自分の思いや考えを伝え合う必然性のある場面設定。 |
| 13分 | 【Practice】<br>・教師のデモンストレーションを見て、どのように活動するのか理解し、内容をよくするポイントをおさえる。<br><br>Good point<br>・ジェスチャー<br>・イラスト<br>・実物 | ・教師がデモンストレーションを見せる。<br>・ジェスチャー、イラスト、実物を、使ったクイズの出し方のパターンを見せ、内容をよくする Good point を確認させる。<br>・3名の教師の「Who am I クイズ」を出題する。<br><br>T: Let's do 「Who am I quiz」 .<br>I like ~ .<br>I can ~ .<br>I want ~ .<br>Who am I ? } (既習事項を使う。)   | ○児童が安心して活動ができるように、また意欲が高まるよう解答時には答えである教師が実際に児童の前にて、できることを披露する。<br>◎イラスト・実物のもの                  |
| 18分 | Production<br>【Activity】<br>「Who am I クイズ」を作成する。<br>・本時のめあての確認<br><br>自分の答えることを確認する。                          | Today's goal インタビューの練習をしよう<br><br>・本時は、Who am I クイズを作るために友達から聞く練習の作業であることを提示する。<br>・自分がインタビューされ、答えることをワークシートに記入させ確認させる。   | ■研究主題とのかかわり<br>①児童が自分の思いや考えを伝え合う活動の設定。<br><br>◎ワークシート  |

|    |  |   |  |
|----|--|---|--|
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューのデモンストレーションで見通しをもつ。<br/>1回目 教師 と ALT<br/>2回目 教師 と 児童<br/>3回目 児童 と 児童<br/>4回目 ペアで</li> <li>出会った友達とできることなどを尋ねたり答えたりする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教師と ALT でインタビューのデモンストレーションを行い、確認させる。</li> <li>児童が理解しやすいよう繰り返して行う。</li> <li>教室を自由に歩き、できることなどを尋ねたり答えたりさせ、聞いたことをワークシートに記入させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>A : Hello.<br/>B : Hello.</p> <p>A : I like ~ .<br/>What do you like ?</p> <p>B : I like ~ .</p> <p>A : I can ~ .<br/>Can you ~ ?</p> <p>B : Yes, I can. / No, I can't.<br/>I can ~ .</p> <p>A : I want ~ .<br/>What do you want ?</p> <p>B : I want ~ .</p> <p>A : Thank you. Bye.<br/>B : Thank you. Bye.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間があれば、聞いたことをクイズにして、誰かにやれさせてみる。また何が必要か考えさせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に挙手をして、チャレンジした児童を称賛する。</li> <li>■研究主題とのかかわり       <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童が自分の思いや考えを伝え合う活動の設定。</li> <li>◆相手意識をもって、できることできないことなどを尋ねたり、答えようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)</li> <li>■研究主題とのかかわり           <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童が自分の思いや考えを伝え合う活動の設定。</li> <li>②児童が自分の思いや考えを伝え合う必然性のある場面の設定。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○児童が安心して活動できるよう、机間指導し、児童が理解できるように補足説明をする。</li> <li>○できている児童や尋ねる側答える側で積極的にジェスチャーやリアクションを取り入れている児童や賞賛する。</li> <li>◎ワークシート</li> <li>○積極的に挙手をして、発表してくれた児童を称賛する。</li> <li>■研究主題とのかかわり       <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童が自分の思いや考えを伝え合う活動の設定。</li> </ul> </li> </ul> |
| 4分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返り</li> <li>・本時活動を振り返る。振り返りカードに記入する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の英語を使おうとする態度などでよかったところをほめる。</li> <li>・意欲的に活動できたか自己評価をさせる。</li> <li>・次時に実際に問題を作る友達を決め、インタビューすることを伝える。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■研究主題とのかかわり       <ul style="list-style-type: none"> <li>③児童が自分の言葉で授業を振り返る活動の設定。</li> </ul> </li> <li>○次時の意欲につながるよう具体的によくできたところをほめる。</li> <li>◎振り返りシート</li> </ul>   |
| 1分 | ○あいさつ  | <p>HT : That's all for today. See you next time. See you.<br/>C : See you.</p>  | ○気持ちを込めてあいさつをさせる。  |

1 2 板書計画

電子黒板

莉亜さんにビデオレターを送ろう

Today's goal インタビューの練習をしよう

A I like 絵  
What do you like?  
A I can. 絵  
Can you 絵 ?  
A I want 絵  
What do you want?

B I like 絵  
B Yes, I can./No, I can't.  
I can 絵  
B I want 絵

ホワイトボード

みんなの  
できること  
イラスト